

協力者へのお願い

日本産婦人科医会先天異常モニタリングへのご協力おねがい

先天異常モニタリングは、妊娠環境(妊娠中のくすりの服用など)からおこる胎児への先天異常・毒性の危険性を察知するためにおこないます。この先天異常モニタリングは、かつての薬害悲劇『サリドマイド事件』をきっかけに1970年ごろからWHO国際先天異常監視研究機構を中心に誕生し、これまで第2のサリドマイド事件の発生を防いできました。日本では日本産婦人科医会の先天異常モニタリング協力病院300病院がその役割をになって、1972年以降、絶え間なく日本で唯一の監視機関(WHO関連の国際先天異常監視研究機構の加盟国)としてその責任を果たし、皆さんの赤ちゃんの安全確保のため監視を続けております。本施設はこの全国で登録された330病院(全国で毎年約10万人の妊婦さんが協力)のひとつとして、先天異常モニタリング事業に協力しております。皆様の診療情報から先天異常モニタリング監視に必要なデータの部分のみを全国集計データとして組み込ませていただきたくお願いしております。個人の情報(お名前、カルテ番号、住所、電話など)は集計にはまったく必要ありませんので切り離して『どなたのデータかがわからない形(連結不可能匿名化)』で集計に組み込まれることとなりますので、後々追加してお尋ねすることはありません。

これからの次代をになう世代、また、私ども自身の身の周りの安全をまもるため、何卒、本モニタリング事業にご理解とご協力をお願いいたします。

- ご質問、ご希望のある方は産婦人科のスタッフ、職員までお申し出ください。
- また本事業にご協力いただけない場合でも本施設における診療には何ら不利益・支障はございませんので、ご遠慮なくお申し出ください。
- 個人名が全く切り離されて集計されるデータは以下のとおりです。
妊婦さんからは年齢、妊産回数、妊娠中の異常、対応、出産週数、出産月。
赤ちゃんからは性別、異常の有無、状況、検査、体重、となっています。
- 本事業の報告は横浜市大国際先天異常モニタリングセンターホームページ <https://icbdsr-j.jp/>、日本産婦人科医会ホームページ <http://www.jaog.or.jp/>、国際先天異常監視機構 WHO 関連機構(ローマ)でもご覧になれるほか、国際先天異常監視研究機構世界代表者会議、学会等において発表、刊行物となっております。
- 本事業は厚生労働省『疫学研究に関する倫理指針』に従い、横浜市立大学医学研究倫理委員会において承認されております。

日本産婦人科医会先天異常モニタリング
クリアリングハウス国際モニタリングセンター日本支部
日本プログラム代表
横浜市立大学附属病院 産婦人科 倉澤 健太郎
センター長 宮城 悦子

問い合わせ先：済生会横浜市東部病院産科部長 伊藤めぐむ
〒230-0012 神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3-6-1 TEL045-576-3000 (代表)